スペシャル対談

建築家
隈 研吾 × 森林文化アカデミー学長 涌井 史郎

2018年8月25日、morinos基本設計講評会のあと、
建築家・隈研吾さんと涌井史郎学長による特別対談が行われました。
「すべての人と森をつなげる」をコンセプトに掲げた「morinos」について、
会場と対話をしながら繰り広げられる話題は設計から教育までバラエティ豊か。
その一部を抜粋して掲載します。

morinosは、森林文化アカデミーのひとつの新しい顔

涌井：　森林総合教育センター(愛称 morinos)は、森林文化アカデミーの学生が隈先生のアドバイスを受けながら基本設計を行っていますが、どんな建物になりそうですか？

隈：　森林文化アカデミーのひとつの新しい顔になるので、「岐阜の森の学校だ」「森のあれだよね」と、みなさんに覚えてもらえる顔が出来そうです。建物は顔がはっきりしていること、顔と同時にメリハリをつけることが大切です。いちばん重要なところと裏方はどこか、経済的なコストを考えて、顔に資源を集中することが大事。そういった意味でも、「ひとつの顔を創る」という意識を持った良いデザインになりました。

涌井：　「学生たちがデザインをする」と聞いて、最初はどう思われましたか？

隈：　すごくうれしくなりました。こういう形で実際に学校の中で設計が進んでいくって、世界でもあまり例がないと思います。実現のプロセスでもかなりみなさんが参加して、作業して、家具をつくって……っていうのが行われることを考えると、ドキュメンタリーにすると良いと思いました。

涌井：　確かに。

隈：　プロセス全体に教育的効果があるから、フィルムを撮っておいたり、本にするといいんじゃないかな。多分、世界中から見学や研修でお越しいただくことになりそうですが、プロセスを綴った本をお土産に渡すとよろこばれると思います。その際、バイリンガルでつくっておくと良いですよね。それをやるに値する価値あるプロジェクトが始まった気がします。

涌井：　大変うれしいことをおっしゃっていただきました。morinosの建築は、森林文化アカデミーの全コースで取り組んで、みんなの力で実現しました。

隈：　木って、自分である程度切り刻んでつくれるから、「参加する」ことが可能な建築材料なんですよね。これからの建築の教育、技術の教育、デザインの教育は参加して一緒につくっていくことがとても重要なあり方になっていくでしょう。これもひとつの目的になると思いました。

森があることで、広い視点を持った人間を育てる事ができる

涌井：　建築設計だけではなく、いろいろなフィールドの教育にも役に立ちそうですね。

隈：　そうですね。教育が縦割りになっている中で、ここは森がありますから、いろんなアプローチが出来ます。環境全体に対する広い視点を持った人間が育っていくことでしょう。

涌井：　隈先生が設計した新国立競技場は建築でも

1　対談は会場全体と対話しながら、終始和やかな様子でした。　2・3　morinos基本設計講評会でプレゼンをした学生２人。
4・5　対談中の隈研吾さんと涌井学長の様子。　6　対談終了後、全員で記念撮影。

ありますが、橋梁工学だと僕は思っていて、エンジニアの最先端と建築のコラボレーションを見ている感じなんです。今の技術力って、境目がなくなっていろんなものが入り組んだ構図になることが重要ですから、そういった意味でも本校の教育は時代の先端を走っているなと。そして、隈先生が森林の価値の中から木材を“日本文化独特の素材”として光を当て、「近代と、生命体としての素材である木材はどのように対話をするのか」にチャレンジしていただいている。そういう一連の流れをもう一度フィードバックして掴み直すことが大切ですね。

隈：　現在の建築は構造とデザインが完全に切れてる。例えば、東京大学の工学部建築学科の場合、コンクリート構造や建築構造の専門家はいても、実際に建物を設計したことがない。実務がなくてアカデミズムなんですよ。さらに、デザインの先生と構造の先生のほとんどが会議でしか会わない。これは東大に限ったことではなく、建築教育はどこもそう。日本だけじゃなくて世界中で。ですから、森林文化アカデミーはすごい。実際にキャッチボールをしながら進んでいく夢みたいな状況がここにあることに感心しました。

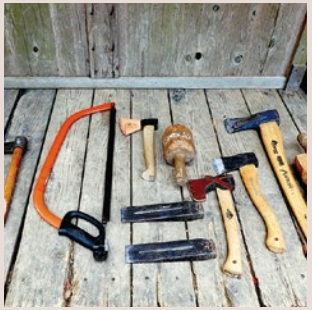
涌井：「環境教育とは一緒に走ること」だと、本校のナバさん（萩原・ナバ・裕作准教授）が言っています。共有感がモラルのようなものを生み出して、気づかせていく教育……ですよね？

萩原：「みんなでつくりながらどんどん変化していくプロセスがいつまでも見え続ける場だったらいいな」と思っています。そういった学びの場で「みんなのスペースになってほしいな」って。もしかしたら当初考えていたものと全然ちがう建物になるかもしれないし、そのプロセスが全部見えたら面白いですよね。

隈：　建築の場合、最終的にみなさんが「ああ！面白い！こんなふうにつくってくれてありがとうございました」みたいなことを思っていただくにはどうしたらいいかというと、一緒に共有して一緒に走る。デザイナーとお客様が一緒に走ってつくった建物だから、もしも問題点が出てきたとしても、デザイナーのせいにするのではなく「自分たちで解決しよう」という気持ちが自然に生まれます。一緒に共有して一緒に走るプロセスは、とても大事です。

隈　研吾
建築家

1954 年神奈川県横浜市生まれ。1979 年東京大学建築学科大学院修了。1990 年隈研吾建築都市設計事務所設立。慶応義塾大学教授、イリノイ大学客員教授を経て、2009 年より東京大学教授を務める。高知県立林業大学校校長。岐阜県立森林文化アカデミー特別招聘教授。

涌井　史郎
岐阜県立森林文化アカデミー学長

1945 年神奈川県鎌倉市生まれ。東京農業大学卒業後、東急グループに 1972 年造園会社を設立。（公財）とうきゅう環境浄化財団理事、（公社）国際観光施設協会副会長、（一社）日本公園緑地協会副会長を務める。2013 年より岐阜県立森林文化アカデミー学長。